



参加無料

京都大学東京オフィス（新丸ビル10階）にて開催

第153回京都大学丸の内セミナー

現地×オンライン

触媒が切り拓くプラスチックの未来



令和8年8月7日（金）

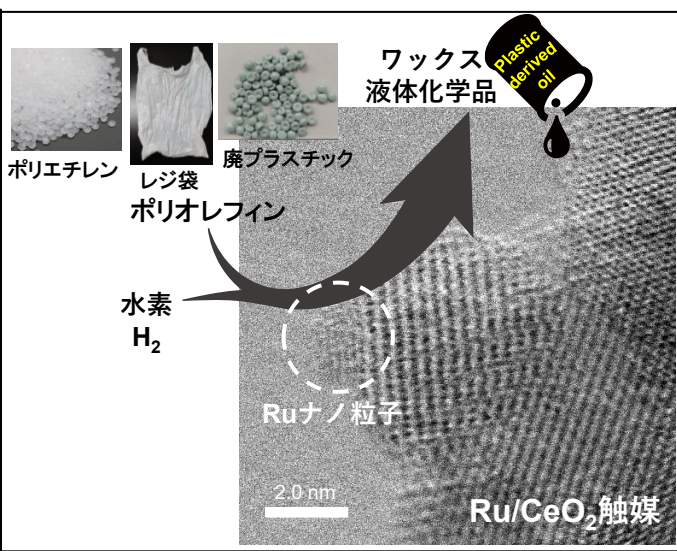
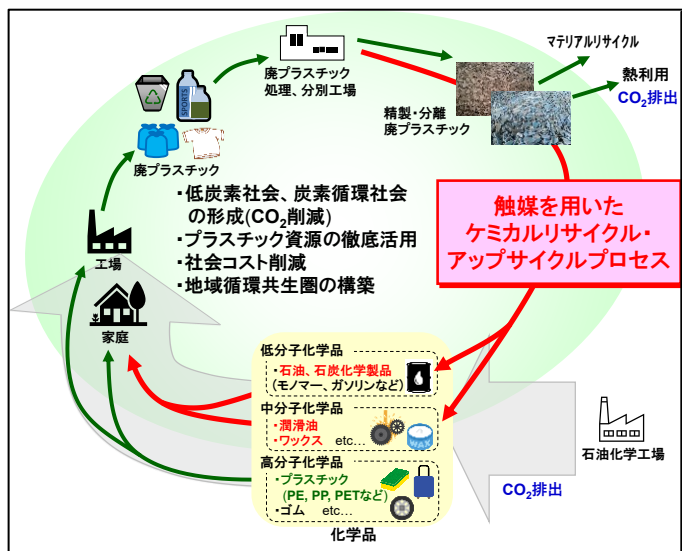
18:00～19:30

講演者：田村 正純

（エネルギー理工学研究所 教授）

近年、マイクロプラスチックに代表される海洋プラスチックごみ問題が顕在化しており、その適正な処理技術の開発が急務となっています。一方、石油資源の枯渇が懸念される中、石油由来の化学品であるプラスチックを単に焼却・埋め立て処分するのではなく、有用な資源として活用することが強く求められています。こうした背景から、プラスチックを貴重な炭素資源と捉えたりサイクル・アップサイクル技術の開発は避けて通れず、その解決策の一つとして化学的手法に基づく「ケミカルリサイクル・アップサイクル」が近年、大きな注目を集めています。

プラスチックの効率的かつ選択的な化学変換を実現する上では触媒技術が極めて重要であり、なかでも耐久性、再利用性、分離回収性に優れる不均一系触媒の開発こそが、実用化の鍵を握ります。本講演では、プラスチックのケミカルリサイクル技術を概説するとともに、プラスチックの大部分を占めるポリオレフィン（ポリエチレン、ポリプロピレン）の変換技術に焦点を当て、最新の不均一系触媒材料の動向を交えて紹介します。



現状の化学品の流れとケミカルリサイクルのイメージ

不均一系ルテニウム触媒を用いたポリオレフィンの化学的変換



京都大学研究連携基盤
Kyoto University Research Coordination Alliance

受講申込みはこちらから

右のQRコードまたは「京都大学研究連携基盤」で検索

<https://www.kurca.kyoto-u.ac.jp/seminar>

